

田中康夫

今月の憂いコト

沖縄の名護市長選挙から
米軍基地移設問題、
仮想通貨ネムの流出、
朝鮮半島問題の大展開まで。

東京・墨田区にある『喫茶ランドリー』は、
ランドリーで洗濯や乾燥をしたり、
ミシンで縫い物をしたりできるユニークなカフェ。
田中・浅田両氏はモグラ席と名づけられた
半地下の席に腰を下ろすと、たっぷり2時間、
黒く汚れた日本の「汚れ」を洗い流した。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂

憂国呆談

season 2 VOLUME 93

移設反対の現職市長が落選。 普天間基地の辺野古移設は？

浅田 2月4日の名護市市長選で、米軍普天間基地移設計画に反対する現職の稲嶺進が落選し、自公と維新が推薦する容認派の渡具知武豊が当選した。出口調査では約6割が移設反対だったのに、自公は基地問題について争点を隠し、経済振興の夢で票を買ったわけだ。反対派の翁長雄志知事や稲嶺市長になってから県や市への財政支援をカットしてきたわけで、露骨だよ。

田中 東京の港区よりも広い面積のキャンブ・シユワブが存在する名護市への米軍再編交付金を中止していた政府は、選挙後に年間30億円の復活を発表した。「権力」とは古今東西、そういう歴史ではあるにせよ、仮に旧・民主党政権が同様の恣意的対応を反政権陣営の自治体に行ったら、ネトウヨが大騒ぎしたろうね（苦笑）。

沖縄では米軍ヘリの墜落や不時着が相次いでいるけど、選挙後の2月6日には佐賀県神埼市の住宅地に陸上自衛隊のヘリコプターが墜落した。民家を直撃したのにNHKは「予備的着陸」と速報して呆れられたけど、奇跡的に軽傷で娘が難を逃れた父親が「許せないです」と答えたらSNS上で罵詈雑言が飛び交う始末。投票日前に事故が発生していたら、名護の結果もどうだったか。

校了直前の2月20日には青森県の三沢基地を離陸した直後にエンジンから出火した米軍のF16戦闘機が燃料タンクを小川原湖に投棄する事故も発生した。シジミ漁船からわずか200メートルの場所に落下したのに、「人けのないことを確認してタンク2個を投下した」という米軍の声明を垂れ流

すメディアも何だかねえ。しかも、使用済み核燃料からウランとプルトニウムを取り出す日本原燃の六ヶ所再処理工場まで30キロメートルの地点だ。マツハ2で飛行可能なF16にとっては誤差の範囲。直撃していたら日本列島はデス・ヴァレ1ならぬゴースト・アイランドになってた。

以前から述べているように、沖縄本島は随分と南北に長くて、南端から3分の1のところから那覇。そこから3分の1の場所が名護。残りの北部の3分の1は、広大な海兵隊の北部訓練場。ヤンバルクイナが棲息する原生林を確保したうえで、軍民共用空港を建設して、こ

ぢんまりとしたマウイ島のハナやバリ島のウブドゥのような保養地を作るほうが賢明だ。実際、そうした具体的代替案を日本が提案するのを、途中から米側も待ち望んでいた節もある。

そもそも当初はヘリパッドをキャンブ・シユワブの敷地内に建設する計画だった。それならわずか2、3か月で供用開始したのに、いつの間にか米軍も驚くくらい海に迫り出し、砂利屋やコンクリート屋が儲かる大事業になっていった。

浅田 それこそ浮体工法でよかったはず。田中 そうなんだよ。しかも実は2009年の「政権交代」直後に軍事アナリストの小川和久と参議院議員の藤田幸久が「脱・辺野古プラン」の密使としてワシントンへ出かけて交渉していたのに、レジム・チェンジが出来ない外務省の息が



かかった当時の民主党の幹部に、覚悟なき鳩山由紀夫が押し切られてしまった。

浅田 これも前から言ってるけど、嘉手納と辺野古は空軍と海兵隊だから違うってのは米軍内部の事情なんで、まずは嘉手納に統合しろよ、と。去年の12月に米軍のヘリコプターの窓が普天間基地に隣接する小学校に落下。不時着も続いている。確かに異常だね。

田中 先日亡くなった野中広務も、橋本龍太郎も梶山静六も小淵恵三も、戦争中に本土の「防波堤」とさせられた沖縄県民に対する申し訳ない気持ちを抱いて、話し合っていた。そうした心の機微が、最近の政治家や官僚、ジャーナリストに果たしてあるかどうか。

浅田 戦後世代の政権になって、本当に態度が変わったね。沖縄に対しても、また、朝鮮半島をはじめとするアジア諸国に対しても。

田中 「実るほど頭を垂れる稲穂かな」はもはや死語。っていうか、経済でも文化でもあらゆる分野でガラパゴス状態なのに、夜郎自大な「日本凄いぞ論」が大手を振っている。

コインチェックのネムが流出。 仮想通貨の未来は？

通させるってのもおもしろい発想なんだけど、「貨幣論」の岩井克人が言うとおり、それ自体は何の価値もないものが交換の媒体になるというのが貨幣なのに、貨幣として流通する前にそれ自体が投機の対象物になってしまい、ハッカーに盗まれたわけだ。

田中 国境という概念が希薄化していくITの時代に、ウエストフリアア条約の頃のOSから変わらない「国家」に愛想を尽かした連中が、仮想通貨というサイバー上で仮想通貨を始めた。ところが早くも、17世紀のオランダのチューリップ・バブルと同じ状況になってしまったのかな。

浅田 宇沢弘文の回想によると、1965年に英ポンドの切り下げが予想されたとき、ミルトン・フリードマンがシカゴの銀行に行って「1万ポンド空売りしたい」と言ったら「投機は紳士のすることではないのでお受けできません」と言われて激怒した。誰もが私益を追求することが社会的な均衡と効率性につながる、その市場経済の原則を、紳士のモラルなんかで邪魔するな、と。その市場原理主義が新自由主義につながる。

でも、自由主義の源泉のフリードリヒ・ハイエクは、市場は社会に埋め込まれてはじめて安定するって考えてた。宇沢も似た立場からフリードマンを批判してるわけ。ところが、いまやフリードマン流の新自由主義が支配的になり、国家を嫌うリバタリアニズムとともに、仮想通貨バブルを生んだわけだ。投機はまともな人のすることじゃないって社会常識がブレイキの役を果たしたけど、それが失われたんだ。

田中 「社会的共通資本」を唱えた宇沢には知事時代から随分とお世話になった僕は、経済・金融・経営のいずれにも相変わらず「音痴」だけど（苦笑）、当時から僕は「新



しいケインズ・正しい「ハイエク」という認識が大切になるんじゃないかな、と感じていたよ。地球全体も世界各国

も面積は変わらないんだから、つくり続けるという従来型の公共事業を超えて、直したり護ったりという維持修繕の発想で、社会を「創り直す」のが新しいジョン・メイナード・ケインズ。そうして、合理主義にも理性主義にも懐疑的だったハイエクの自由主義は、モラルハザードなりフレアの学者や切った張ったのトレーダーだのマーケットだのといった連中とは違うんだとね。

なあって素人が講釈垂れていると失笑を買ってしまうので話を戻すと、ネムの流出は誰かが周到に仕組んだ「計画犯罪」じゃないかとも言われているみたいだね。自己資金で賠償すると方針発表したコインチェックは、浪花節で兜町的な男気がある連中だと投資家から褒められたけど、返済分は目減りした後の額で、しかもネムではなく円で支払うと。コインチェック側は損金算入するから30パーセントの法人税を払わずに済む。逆に「匿名口座」を開設していた顧客のほうは、自分の銀行口座に振り込まれるから雑所得として所得税が確定して、コインチェックに代わって差益分を納税する羽目に陥る。あぶく銭は身につかないという苦い良薬だね。

浅田 ビットコインのマウントゴックスにせよ、ネムのコインチェックにせよ、ずさんな運営だったのは確かだけど。日本銀行券だって兌換紙幣じゃないんで、国家が価値を保証してるわけじゃないけど、量はコントロールしてる。そう

いう外部のコントローラーなしにブロックチェーンのシステムだけでやれるかというところ、今のところ難しいだろうね。

田中 今こそ机上の空論の倫理学とは異なる、人間としての「倫理」が必要。意識高い系とは本来、研ぎ澄まされた暗黙知の「勘性」を持った意識高い系であるべきで、それでこそ目利きを超えた鼻利きたり得るのに、アチーブメントテストの勝者みたいな形式知の意識高い系ばかりになっちゃっているからね。フリードマンが怒り狂ったような紳士的な作法を、シャイロックとは異なる銀行もわきまえていなければいけない。ところが、ゼロ金利の日本では銀行も金を貸したいところがない、というか貸すべき相手を目利きでも鼻利きでもないから見付けられない。

第一勧業銀行、富士銀行、日本興業銀行が合併して誕生したみずほ銀行は、旧3行



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。http://tanakayasuo.me

出身者同士の縄張り争いが収まらずに「One MIZUHO」のキャンペーンを張ったものの、業績は三菱UFJフィナンシャル・グループや三井住友フィナンシャルグループの後塵を拝している。どうするのかと思っただけで眺めていたら、みずほフィナンシャルグループの次期社長にはみずほ証券社長が就任することとなった。これまでの商業銀行から、証券を軸にした投資銀行へと変身する目論見らしいけれど、吉と出るか凶と出るか。

浅田 1929年の大恐慌の教訓でアメリカは銀行と証券を分離したけど、また一緒にしちゃったらリーマン・ショックが起った。それでまた分離したはずのものを、またまた一緒にしちゃおう、と。よく考えたらドナルド・トランプ大統領も不動産投機屋だしね。

田中 投資銀行⇒インベスメント・バンク



は、金貸しよりも響きがいいけど、言い換えれば、株屋と不動産屋の合体だからね。護送船団方式のぬるま湯に浸かり続けてきた島国のガラパゴス集団が、生き馬の目を抜く大海原に漕ぎ出して果たしてどうなることやら。支店業務に日々追われる現場の行員の士気が心配だね。

平昌五輪前後に、北朝鮮問題の大展開はあるか。

浅田 そう言えば、トランプの暴露本『Fire and Fury (炎と怒り)』はわりとおもしろいよ。著者のマイケル・ウォルフは大新聞の政治記者じゃなく、ハリウッドなんかには詳しいフリー・ジャーナリストだけど、実際、ホワイトハウスに出入りを許されてたわけだし……。

田中 彼は以前にトランプを礼賛するインタビュー記事を書いて気に入られ、ホワイトハウスにも出入りが許され、それで大統領首席戦略官だったステイヴン・パノンも気を許していろいろと喋っちゃった。ところが裏話まで全部書かれてしまい、トランプの逆鱗に触れてしまったと(爆笑)。極右ネットメディア『 Breitbart・ニュース』を率いていたのに、古巣からも追放されてしまうとはね。

浅田 最初からして意味深長で、トランプは大統領選挙に本当に勝つとは思ってなかった、メラニア夫人も勝利のニュースにかえって泣いた、と。実際、大統領選挙で知名度を最大にしたあと敗北すれば、FOXみたいなメディアを自前でつくって言いたい放題、しかも儲かる。勝つてうれしくないわけじゃないだろうけ



拉致問題を解決する上でも、日本は大きな潮流の変化に乗り遅れるべきではない。(田中)

ど、監視の目がきつくてあざとい金儲けもやりにくいし、政治も思ったほど好き放題にはやれないし、あんまり楽しくないんじゃない？

田中 ホワイトハウスのスタッフも手薄なままだし、娘のイヴァンカと夫のジャレッド・クシュナーがシリア問題でも口を出しすぎて、ジャヴァンカと陰口を叩かれているからね。

浅田 ついでに言うと、ホワイトハウスが大統領夫妻の居住区に飾るためにフィレンセント・ファン・ゴッホの『雪のある風景』を借りたってグッゲンハイム美術館に求めたら、キュレーターの名シール・スペクターが「ゴッホは無理ですが、マウリツィオ・カテランの『アメリカ』でしたら」と。それは、グッゲンハイム美術館のトイレの便器のひとつを18金で複製して、実際1年ほど使ってたっていうもの。日本の学芸員には期待できない牙えた応答。

田中 それはそれは（爆笑）。その昔に村上麗奈が皇太子と一夜を共にしたと「週刊ポスト」で告白して話題となったブルネイの航空会社ロイヤル・ブルネイが1986年に就航させたボーイング757のファーストクラスのトイレが便座から内装まで全て18金だったけど。

浅田 フォックスの連中が激昂して「彼女こそニューヨーク・エリートだ、思いあがって大統領を軽蔑しているのだから、それは大統領職、ひいてはアメリカ

に対する侮蔑だ、ただちに謝罪し辞任せよ」ってわめてたけど。

それにしても、今年になって平昌五輪をき



平昌五輪をきっかけに 南北宥和に急転した 北朝鮮の戦略は大したもの。(浅田)

して、失笑を買っている。この劣化は目を覆いたくなる。

浅田 ただ、応援団や芸術団の美女軍団で南北宥和を演出しようとした北の作戦はあんまりうまくいかなかったみたいだね。美女たちがみな若き日の金日成かと言われるお面をかぶって応援したりしたけれど、あれはKポップで世界を制覇しつつある韓国のセンスからすると異様にしか見えなかった。とくに若者の間で北との再統一を望む声が激減している。若者は左翼的で親北ってのは昔の話なんだ。その意味でも南北の棲み分けが当分続くんだろうな。

田中 とは言え、アメリカの資源探査衛星のデータによれば、現在は世界供給量の9割を中国が独占するレアアースの北朝鮮に眠る埋蔵量は、中国の6倍だからね。軍需産業に必須のタンングステンやウランも世界の半分を埋蔵している。北朝鮮と国交関係のある国は166か国。拉致問題を解決するうえでも、日本は大きな潮流の変化に乗り遅れるべきではない。そうそう、今や国際映画評論家と呼んではいられない東京大学教授・藤原帰一のアシスタントとして売り出した三浦瑠麗が、テロ行為を展開する北朝鮮の「スリーパーセル」が大坂には潜んでいると地上波で喋ったら、その大坂で来年のG20を開催すると政府が発表して、「国際政治学者」の妄想って、参議院議員の青山繁晴と同レベルですか、とパヨクだけでなくネットウヨにまで噴かれてしまう痛い展開に。まあ「可愛い子には旅をさせよw」で、次号でも触れてみましょうか。

田中 マイク・ペンス副大統領もトランプ大統領も北朝鮮との対話を模索している。国交樹立は田中角栄が先んじたとは言え、リチャード・ニクソン政権下でヘンリー・キッシンジャーが極秘に訪中して周恩来と米中和解への道筋を付けたように、米中ロ韓が歩調を合わせて北朝鮮と「対話」する展開になりそう。圧力一辺倒の日本は置いてきぼりになりかねない。なのに、脱原発の主張を封印して、「日本凄いぞ論」へと宗旨替えした外務大臣の河野太郎は、ペンスが用いた「対話」ではなく「接触」という意味だ、と駅前留学の語学学校でも教えないような珍解釈をドイツで披露

っかけに南北宥和に急転した北朝鮮の戦略は大したもの。核戦力が完成したっていう昨年11月末の宣言は眉唾もので、ミサイルに積んだ核弾頭を大気圏再突入後にうまく爆発させるのはまだまだだと思うけど、完成を宣言した以上、今年からは対話に向かう、と。実際、中国が北を見捨てない限り国際社会の圧力には限界があるし、北が唯一の保証である核をいまだ放棄することはない。他方、北は体制の維持だけを狙って、イデオロギーのために自滅したりはしないから、核抑止が効くってのがアメリカのホンネでしょ。いまだに限定的攻撃による「鼻血作戦」なんてバカなことも言ってるけど、他方では事実上無条件で対話に入ってもいいって言い出した。そりゃ、核放棄が対話の前提条件だなんていうのは、一方的な全面降伏の要求だからね。この期に及んで「対話のための対話じゃだ

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

